

横浜防災ライセンス

救助資機材 取扱リーダ―

～救助・救護に必要な資機材～

横浜市防災・危機管理統括本部

救助資機材取扱リーダー 目次

1	エンジンカッター	1
2	レスキュージャッキ	9
3	発電機	
	・ ガソリン式発電機	18
	・ ガス式発電機	33
4	投光器	39
5	簡易担架	51
6	工具類	55

エンジンカッター

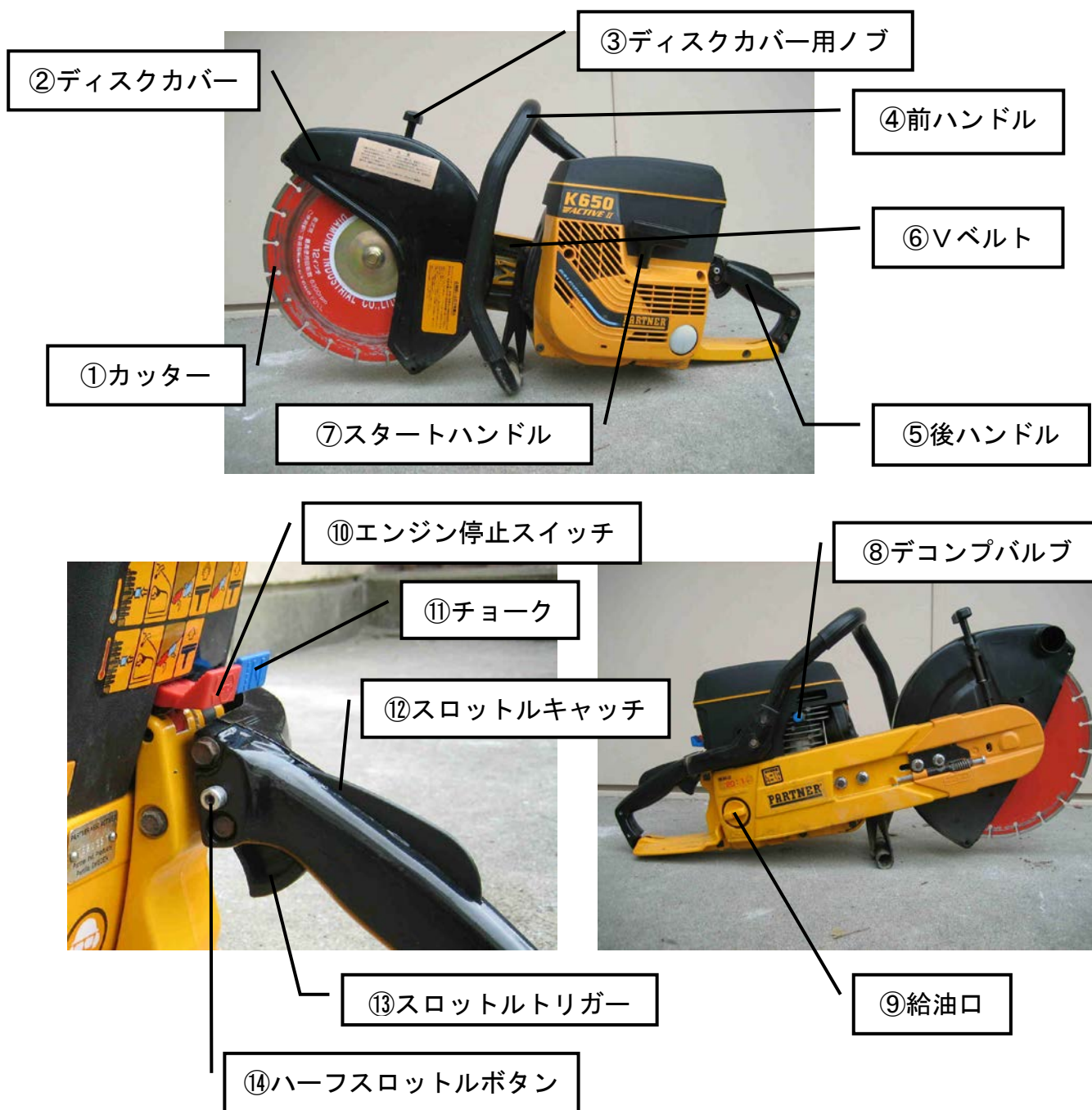
横浜市では2種類のエンジンカッターを備えていますが、特に性能・操作方法の違いはありません。

エンジンカッターは、高速回転する刃物でコンクリート、鋼材などを切断する機械ですので、誤った使い方をすると大変危険です。

正しい使い方を覚え、安全に使いましょう。

種 類	K650 アクティブ (パートナー社製)	EC757 (新ダイワ社製)
本 体 色	黄	赤
乾 燥 重 量	9.3kg	11.0kg
エンジン形式	2サイクル空冷ガソリンエンジン	
排 気 量	約 72 C C	
使 用 燃 料	混合燃料 無鉛ガソリン＋2サイクル専用オイル＝20：1 (25：1も可)	
タ ン ク 容 量	約 0.76 リットル	
カ ッ タ ー	外径約 300mm	
最 高 周 速	約 4800m／min	
備 蓄 数 量	2 台	

1 部品名称



番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	カッター	⑥	Vベルト	⑪	チョーク
②	ディスクカバー	⑦	スタートハンドル	⑫	スロットルキャッチ
③	ディスクカバー用ノブ	⑧	デコンプバルブ	⑬	スロットルトリガー
④	前ハンドル	⑨	給油口	⑭	ハーフスロットルボタン
⑤	後ハンドル	⑩	エンジン停止スイッチ		

2 使用にあたっての注意点

☆ エンジンカッターで金属などを切断する際は火花が散るため、危険防止用の保護具を使用し周囲に可燃物がないか確認する。

☆ 燃料の混合ガソリン及びその気化ガスは、引火性が高いので取扱いに注意する。

- 1 燃料がエンジンカッター本体から漏れていないことを確認する。
- 2 給油時などに燃料を周りにこぼした場合は必ず拭き取る。
- 3 操作する人（以下「オペレーター」という。）は作業中、カッターの前後方向の延長線上に足等を置かないようにする。
- 4 操作中はカッターの前後方向に人を近づけない。
- 5 操作中に異常を感じた場合は直ちに操作を中止する。
- 6 換気の悪い場所では使用しない。
- 7 本機を移動する場合は必ずエンジン进行を停止してから行なう。
- 8 身支度は危険防止のため、ヘルメット、防塵めがね、滑りにくい手袋（革手袋など）、肌を露出しない服装（燃えにくいもの）、安全な靴を装着すること。



3 使用方法

【安全確認】

手順1 「①カッター」がしっかり締まっていることを確認する。



締め付けがゆるい状態でカッターを回転させると、ディスクが勢いよく飛び出すことがあります。ディスクが人体に当たった場合、大怪我や人命に重大な影響を及ぼす恐れがあるため、必ずエンジンカッターの前後方向に人が立っていないことを確認してから作業を開始して下さい。

手順2 「②ディスクカバー」の角度を調整する。



エンジンカッターで金属などを切断する際は火花が散るため、カバーを調整し自分に火花がかからないようにする。

手順3 「⑥Vベルト」にたわみがないことを確認する。



ベルトの中間部分を指で押したときに1.5cm以上たわまないことを確認する。

手順4 「⑦スタートハンドル」を引きスタートロープに著しい摩耗や損傷がないか確認する。

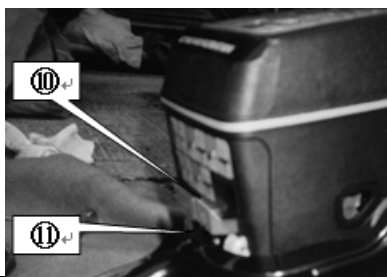
【エンジンの始動】

手順1 「⑨給油口」をはずし、混合燃料を入れる。



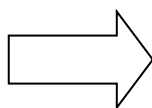
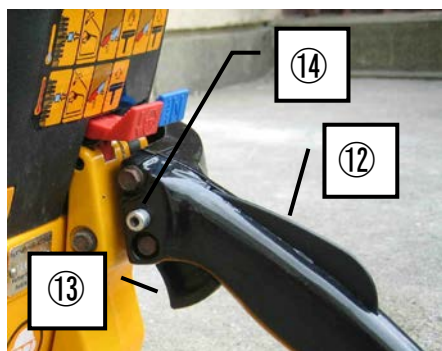
燃料は、市販されている混合燃料
無鉛ガソリン＋２サイクル専用オイル＝20：１を
使用します。（25：１も可）

手順2 「⑩エンジン停止スイッチ」が「ON」（上にあがった状態）になっていることを確認し、「⑪チョーク」を引く。



何度か始動させ、エンジンが十分温まっている
場合、チョークを引く必要はありません。

手順3 「⑫スロットルキャッチ」を押しながら「⑬スロットルトリガー」を握り、次に「⑭ハーフスロットルボタン」を押し込んで手を離す。

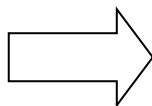


手順4 「⑧デコンプバルブ」を押し込む。



デコンプバルブとは：
エンジンシリンダー内の圧力が高いと始動に力が必要であるため、デコンプバルブを押し入れることにより圧力を下げ始動し易くする。

- 手順 5** 左手で「④前ハンドル」の中心を握り、「⑤後ハンドル」下部を右足で踏んで固定し、右手で「⑦スタートハンドル」を握り、後方を確認し、勢いよく引く。



- 手順 6** 初爆（ボンという音がする）が起きたら、「⑧デコンプバルブ」を再度押し込み（デコンプバルブは初爆時に元に戻ります）、「⑪チョーク」を戻す。

- 手順 7** **手順 5**と同じ要領で、「⑦スタートハンドル」を再度、勢いよく引く。

- 手順 8** エンジンが始動したら「⑦スタートハンドル」を握ったまま、自動巻戻しの速度に合わせてゆっくり戻す。

- 手順 9** 「⑬スロットルトリガー」を引いて、ハーフスロットルを解除して、エンジンの動作（回転）に異常がないか確認する。トリガーから指を離し、カッターの回転が止まるのを待つ。

【切断】

手順 1 足場がしっかりしている平らな場所に立ち、エンジンカッター本体を、左手で「④前ハンドル」を、右手で「⑤後ハンドル」を確実に持つ。必ず両手で使用する。

手順 2 「①カッター」を切断しようとする面に直角になるように当てる。
切込みを付けたあとは、まっすぐに切断していく。



切断時はスロットルトリガーを強く（全開）握り、エンジンの回転数を最速にする。切断中は回転を緩めない。
カッターを斜めにあてるとカッターに負担がかかり、カッターの刃が欠け、飛び散る恐れがあります。
また、切断の途中で回転を止めると、カッターがひっかかり、抜けなくなることがあります。

手順 3 切断後、エンジンカッターを持ち上げ、「⑬スロットルトリガー」から指を離す。「①カッター」の回転が止まるのを待つ。

【エンジンの停止】

手順 1 エンジンカッターを「⑤後ハンドル」の下の部分から先に降ろす。
また、「①カッター」が地面につかないようにする。
「⑦スタートハンドル」を軽く引き、エンジンが完全に停止するまで、「⑩エンジン停止スイッチ」を下に押し続ける。



スタートハンドルを引かずにエンジンを停止させた場合は、自動巻戻しの力によりスタートハンドルの先にあるスタートロープが切れる恐れがあります。必ず、スタートハンドルを軽く引いた状態で、エンジンを停止させてください。

（スタートハンドルを左手で引き、その手で前ハンドルを持つと安定した体勢でエンジンを停止できます。）

手順 2 エンジンが停止したら、「⑦スタートハンドル」をゆっくり元に戻す。

4 収納保管

手順 1 「⑨給油口」から余った燃料を取り出す。



燃料を入れたままで数ヶ月使用しないと、燃料が固形化しエンジンがかからなくなることがあります。

手順 2 エンジンを始動し、本体に残っている燃料がなくなるまで運転する。

手順 3 エンジンが完全に冷えてから収納する。

廃油の処理

エンジンカッター等を使用し、取り出した燃料を地面や排水溝などに処分することは廃棄物処理法で禁止されています。

ガソリンスタンドなどで適正な処理を行ないましょう。

レスキュージャッキ

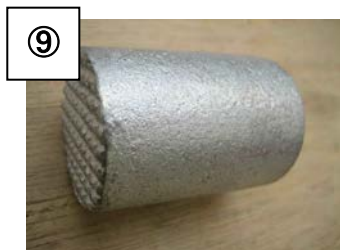
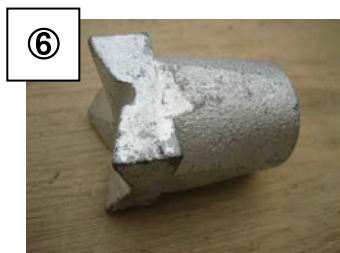
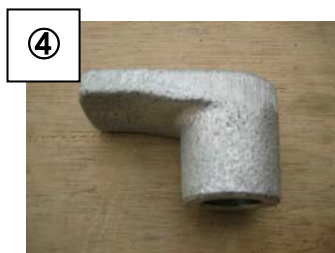
レスキュージャッキは、油圧を利用し様々な組合せにより少しの力で重量物を持ち上げたり、動かしたり、隙間を広げ被災者の救出などを行うことができる道具です。

しかし、誤った使い方をすると使用者が重量物の下敷きになってしまうことや、被災者へさらに負荷をかけてしまう恐れがあります。状況に適した使用方法や組合せ方を正しく覚えましょう。

種類	レスキューセット（株式会社 マサダ製作所）
ハンドポンプ	重さ：6kg 貯油量：220cc
スプレッドラム	重さ：10kg 最大能力：1トン 最大ストローク：273mm
ラムシリンダー	重さ：2kg 最大能力：4トン 最大ストローク：125mm
その他のアダプター	耐荷重：2トン
備蓄数	1セット



1 部品名称



番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	ハンドポンプ	⑥	Vベース	⑪	102 mmジョイント
②	スプレッドラム	⑦	ウエッジヘッド	⑫	406 mmジョイント
③	ラムシリンダー	⑧	ラバーフェイスドフラットベース	⑬	アジャスタブルエクステンション
④	プランジャートウ	⑨	セレテッドヘッド		
⑤	ラムトウ	⑩	コネクター		

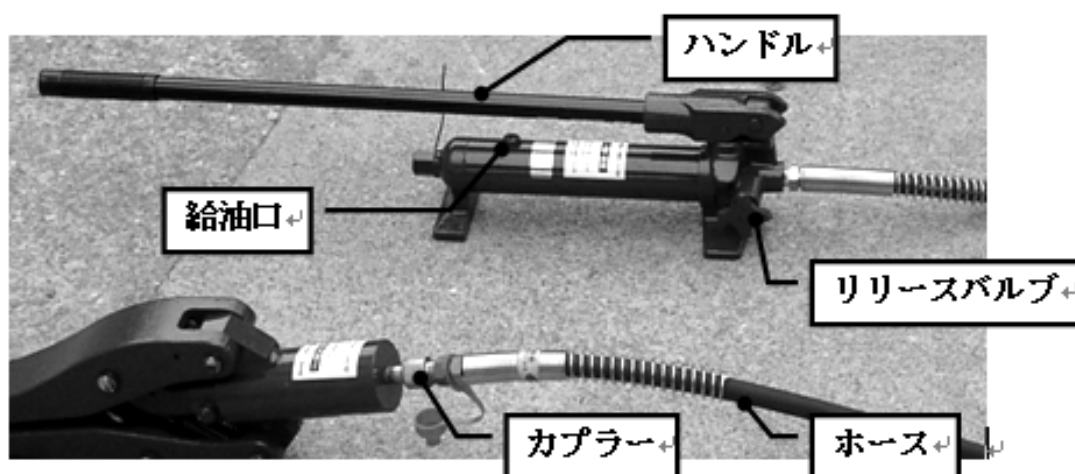
2 使用にあたっての注意点

- 1 持ち上げた重量物の下には入らないこと。
- 2 腐食やさびの原因となるため、雨、水などをかけないこと。
- 3 必要以上に持ち上げたり、動かしたり、隙間を広げないこと。

3 使用方法

レスキュージャッキは、用途により、「①ハンドポンプ」に「②スプレッドラム」や「③ラムシリンダー」、④～⑬アダプターなどを組合せて使用します。

【ハンドポンプの使い方】



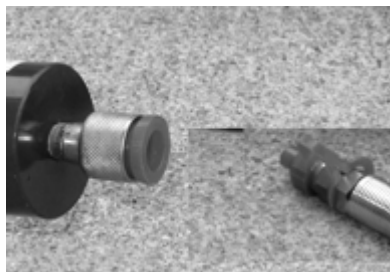
- 手順 1** リリースバルブをゆるめて、ホースとカプラーに圧力がかかっていない状態にする。



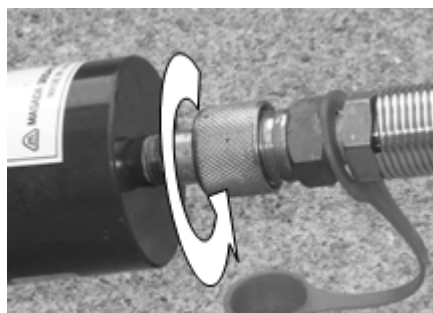
ハンドポンプにラムシリンダーなどを接続しない状態で操作を始めると、本機に圧力がかかり危険なので、特に注意する。

また、ハンドポンプが加圧状態のときにカプラーを操作することは、オイルが飛び出したり、破損の原因となるため注意する。

手順 2 ハンドポンプホースのカプラーと接続部品（「②スプレッドラム」または「③ラムシリンダー」）のカプラーをそれぞれの連結ネジを手で締め、確実に接続する。



カプラーに異物が付着していると、オイル漏れの原因となるため、清潔に保つようにする。



手順 3 接続部品内のエア抜きをする。

- 1 リリースバルブを時計回りにまわし、バルブを閉じる。
- 2 負荷の掛かっていない状態で、接続部品が最高の位置に上がるまで、ハンドルを使って操作する。
- 3 「①ハンドポンプ」を接続部品よりも高い位置に置く。

手順 4 接続部品内とホース内の空気を抜く。次のどちらか一方を行う。

- 1 接続部品をさかさまにする。
- 2 接続部品のカプラーを上向きにする。

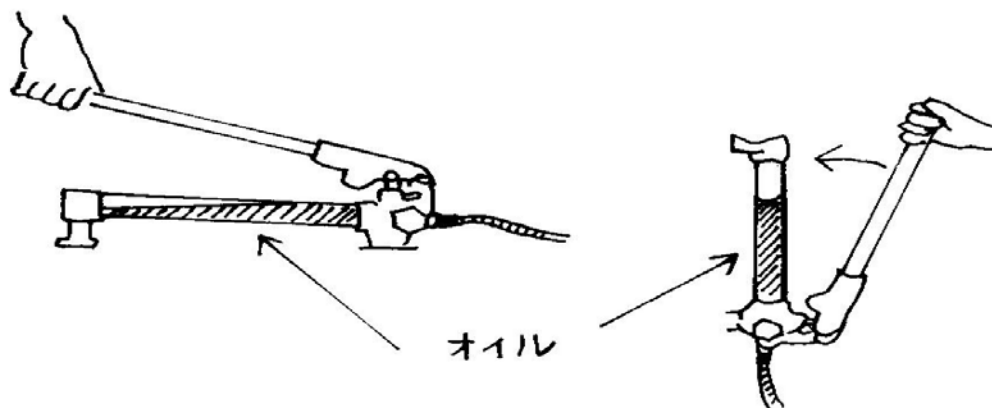
手順 5 リリースバルブをゆるめると空気が抜けて、「①ハンドポンプ」内のオイルと空気が置き換わる。

手順6 リリースバルブを時計回りに手で締める。

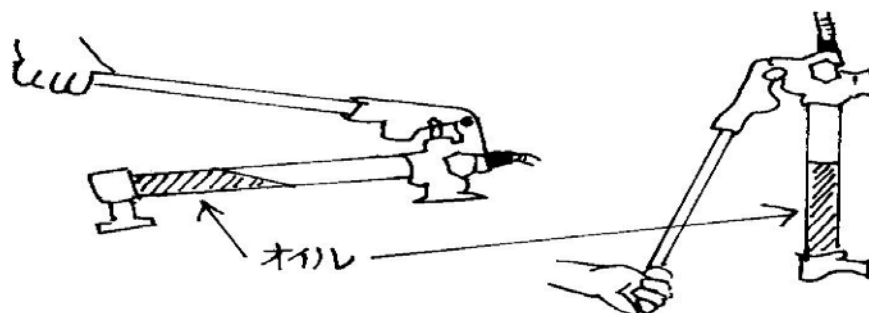
リリースバルブは工具を使って締めると、バルブが破損する恐れがあるので、必ず手で締める。

手順7 ハンドルを上下方向に作動させる。

(正しい操作状態)



(誤った操作状態)



「①ハンドポンプ」部分にはオイルが入っています。
上図の誤った操作状態では、操作できません。
「①ハンドポンプ」内をオイルが満たしている状態で操作してください。

用途と組合せ

A スプレッドラム



主 な 用 途	すき間を広げる。
最 大 能 力	1 トン
ス ト ロ ー ク	約 273mm
特 色	装着が簡単。物を持ち上げるなど様々な用途に活用できるが、最大能力は1 トンまでとなっている。
注 意 事 項	使用する場合は必ずスプレッドラム本体を手で支えること。

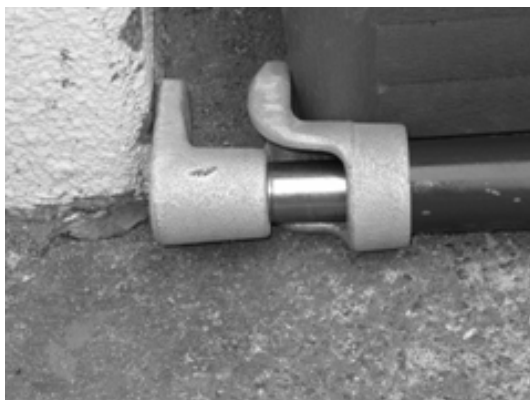
B ラムシリンダーとアダプター



主 な 用 途	物を持ち上げる。
最 大 能 力	2 トン
ス ト ロ ー ク	約 125mm
特 色	アダプターを組み合わせることにより、様々な状況に対応ができる。
注 意 事 項	使用する場合は必ずラムシリンダー本体を手で支えること。

【組合せの一例】

1 ③ラムシリンダー+④プランジャートウ+⑤ラムトウ



手順 1 ラムシリンダーの先端のリングを外し、ラムトウを締め込む。



手順 2 プランジャートウはラムシリンダーの先端のロッド（突起部分）に差し込む。



荷重は必ずトウの根元で受けるようにし、各トウの先端部分で作業をしない。

2 ③ラムシリンダー+⑥Vベース+⑦ウエッジヘッド



3 ③ラムシリンダー+⑧ラバーフェイズドフラットベース+⑦ウエッジヘッド

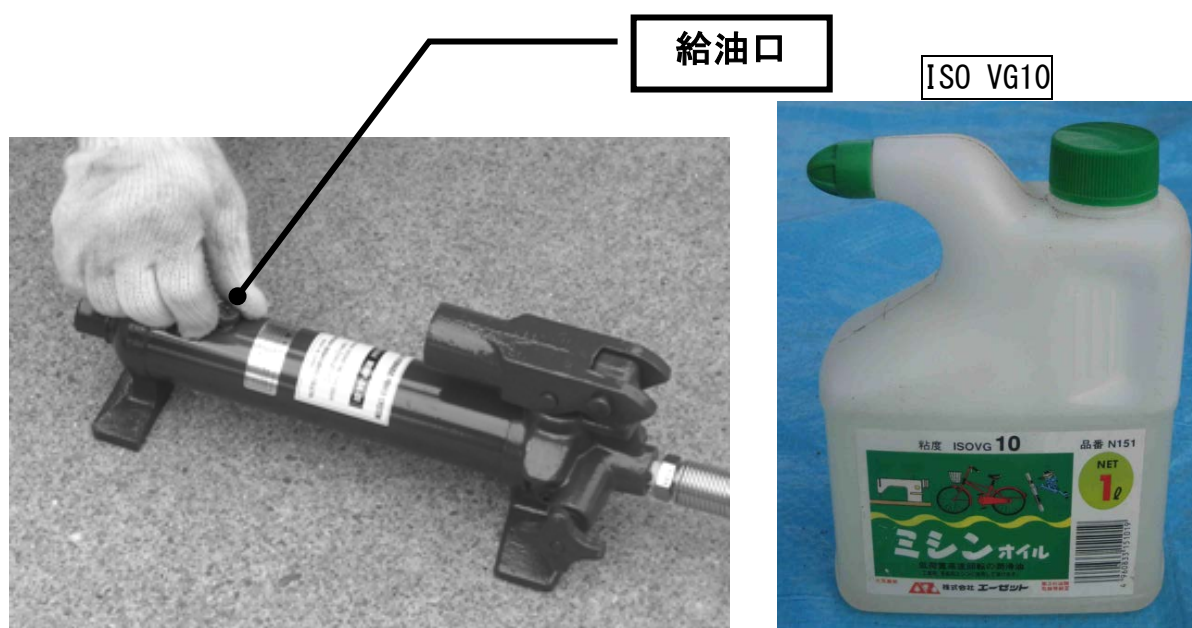


※ 状況に応じて⑪、⑫ジョイントなどにより長さを調整します。

4 ハンドポンプへの給油

手順 1 リリースバルブをゆるめて、「①ハンドポンプ」内に圧力がかかっていない状態にする。

手順 2 給油口のねじを外し、「一般油圧作動油（ISO VG10 など）」を給油する。（ハンドポンプを床に対して垂直に立て、穴の位置まで入れる。）



手順 3 給油が終了したらねじをしっかりと締める。

手順 4 「①ハンドポンプ」を作動させ、ロッドを最高まで伸ばして正常に作動するか確認する。

発電機（ガソリン式・ガス式）

発電機は、エンジンにより発電し照明、テレビ、ラジオ、電熱器などの電源として活用します。この発電機を使用して、地域防災拠点に備蓄している投光機や移動式炊飯器を稼働させることができます。

地域防災拠点の備蓄庫には、ガソリン式及びガス式の発電機があり、それぞれ使用方法等が違いますので、正しく理解しましょう。

1. ガソリン式発電機（ホンダ）

種 類	EX900（本田技研工業株式会社）
乾 燥 重 量	25kg
エンジン形式	4サイクル空冷ガソリンエンジン
排 気 量	約 97cc
使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン
タ ン ク 容 量	約 2.8 リットル
備 蓄 数	1 台

1 部品名称



番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	エンジンスイッチ	⑤	交流コンセント	⑨	燃料計
②	始動グリップ	⑥	直流出力端子	⑩	燃料給油キャップ
③	トップカバー	⑦	エンジンオイル給油キャップ	⑪	チョークレバー
④	電圧計	⑧	ハンドル	⑫	排気口

2 使用にあたっての注意点

- 1 室内や換気の悪い所では使用しない。（排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります）
- 2 雨の中や水のかかる所では使用しない。
- 3 燃料のガソリン及びその気化ガスは、爆発性が高いので取扱いに注意する。
- 4 操作中に異常を感じた場合は、直ちに操作を中止する。

3 使用方法

【エンジンの始動】

手順 1 「⑩燃料給油キャップ」をはずし、自動車用無鉛ガソリンを入れる。

手順 2 発電機の「⑤交流コンセント」と「⑥直流出力端子」に何も差し込まれていないことを確認し、「①エンジンスイッチ」を「運転」に押し上げる。



手順3 「⑪チョークレバー」を「始動」の位置にあわせる。



何度か始動させエンジンが十分温まっている場合は、チョークを引く必要はありません。

手順4 「②始動グリップ」をゆっくり引き、ロープに著しい摩耗や損傷がないか確認をする。

手順5 後方を確認し、「②始動グリップ」を勢いよく引く。



手順6 エンジンが始動し、回転が安定したら「⑪チョークレバー」を「運転」の位置にもどす。

【電気の取り出し】「⑤交流コンセント」使用の場合

- 手順 1** 使用する電気機器の電源が切れていることを確認し、「⑤交流コンセント」に電源プラグを差し込む。



- 手順 2** 使用する電気機器の電源を入れて使用を開始する。

〈使用できる範囲〉

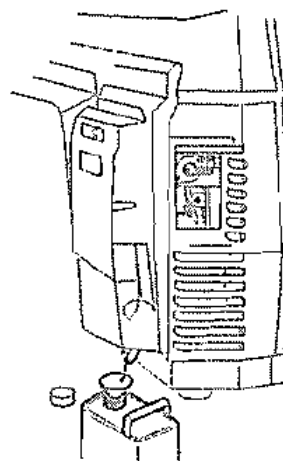
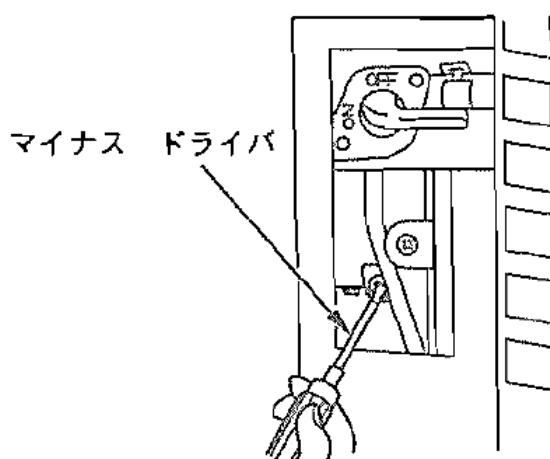
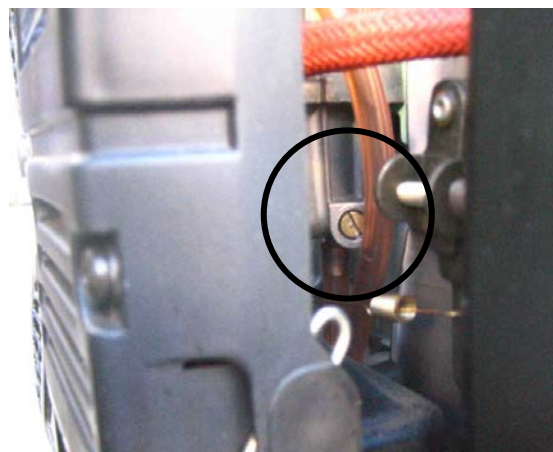
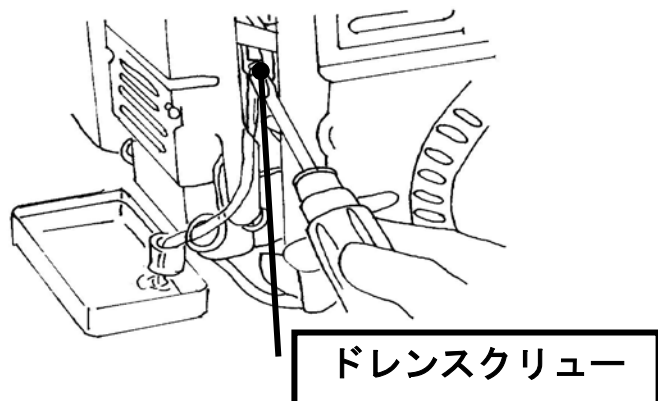
使用電気機器	使用範囲
一定の継続した負荷がかかるもの 照明、テレビ等（100Vのもの）	750W
通電時に大量の負荷がかかるもの ポンプ等のモーター類	200W
12V バッテリー充電（車のバッテリーなど）	8.3A

【エンジンの停止】

- 手順 1** 使用電気機器のスイッチを切り、電源プラグを抜く。
- 手順 2** 「①エンジンスイッチ」を「停止」にあわせる。

4 収納保管

- 手順 1** エンジン停止中にドレンスクリューをゆるめ、余った燃料を用意した容器に取り出す。



- 手順 2** ドレンスクリューを締め、エンジンを始動させ発電機に残っている燃料がなくなるまで運転する。

- 手順 3** エンジンが停止したら「①エンジンスイッチ」を「停止」にし、エンジンが完全に冷えてから収納する。

廃油の処理

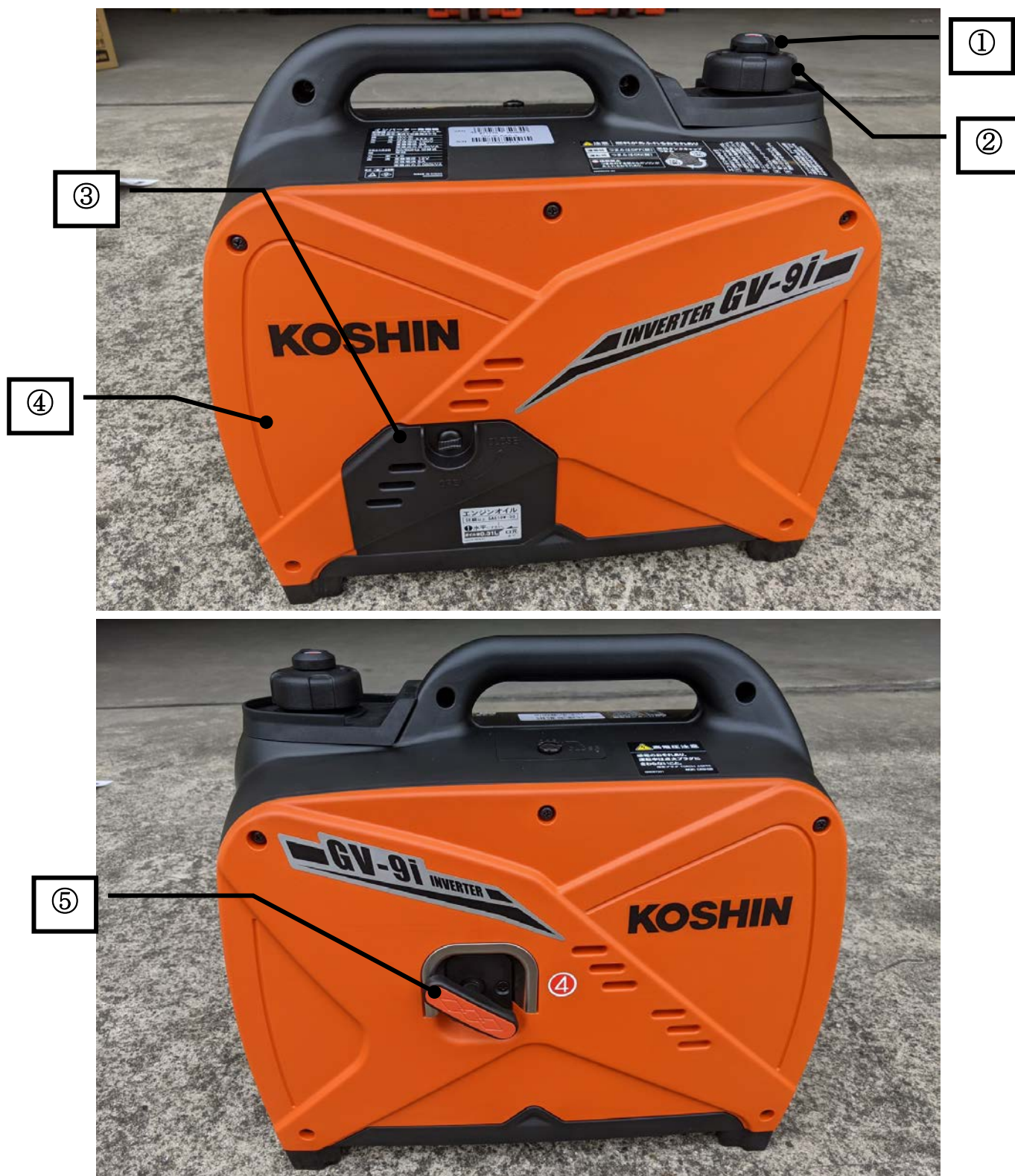
発電機等を使用し、取り出した燃料を地面や排水溝などに処分することは廃棄物処理法で禁止されています。

ガソリンスタンドなどで適正な処理を行ないましょう。

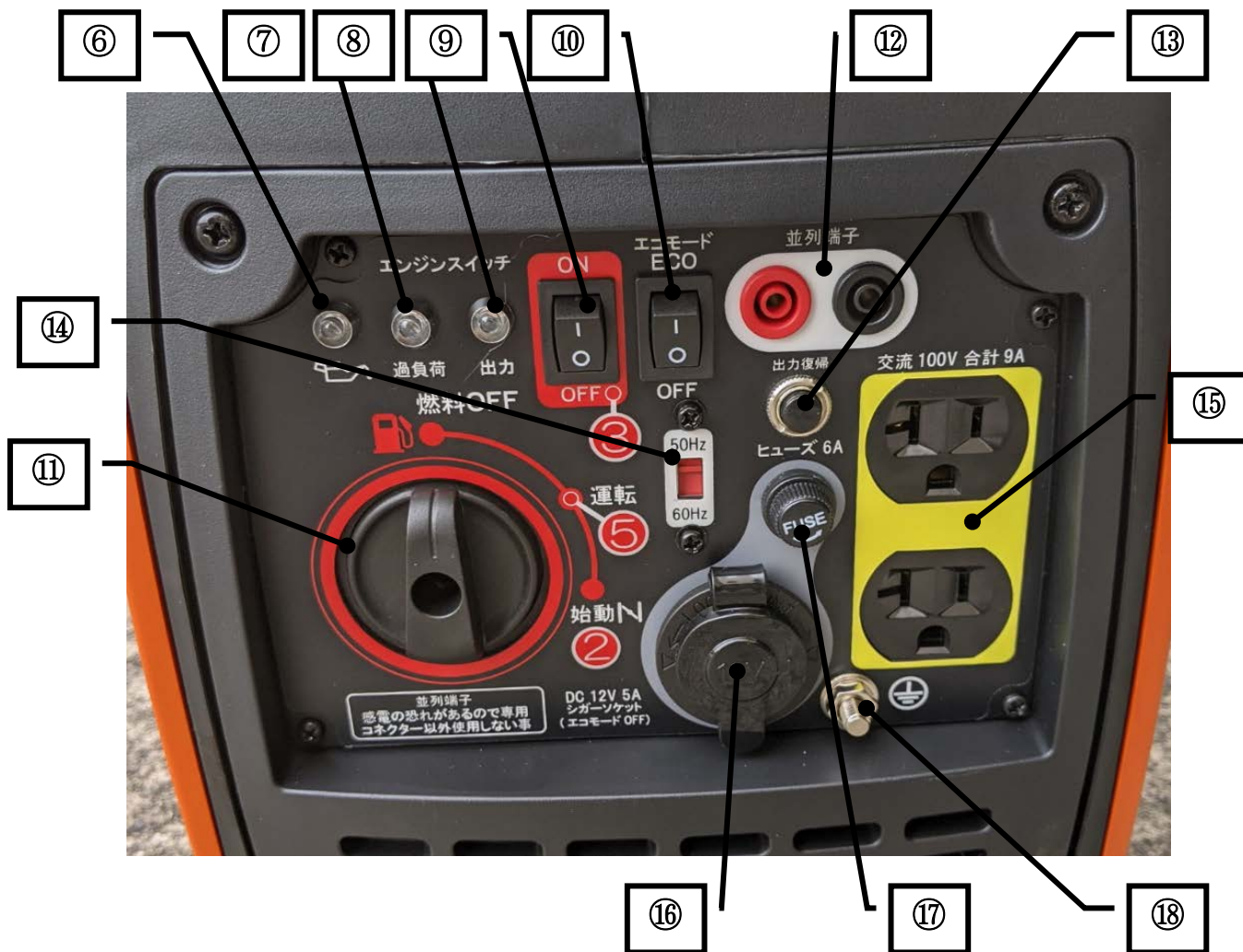
2. ガソリン式発電機（工進）

種 類	GV-9i（株式会社工進）
本 体 重 量	14kg
エンジン形式	空冷4サイクルガソリンエンジン
総 排 気 量	60cc
使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン
タ ン ク 容 量	2.6 リットル
備 蓄 数	2 台

1 部品名称



番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	燃料タンクキャップつまみ	③	オイルプラグメンテナンスカバー	⑤	リコイルスターターグリップ
②	燃料タンクキャップ	④	メンテナンスカバー		



番号	名称	番号	名称	番号	名称
⑥	オイル警告ランプ(赤)	⑪	燃料コック兼チョークノブ	⑬	出力復帰ボタン(交流用)
⑦	過負荷警告ランプ(赤)	⑫	並列端子(交流用)	⑭	周波数切替スイッチ
⑧	出力ランプ(緑)	⑬	出力復帰ボタン(交流用)	⑮	交流コンセント
⑨	エンジンスイッチ	⑭	周波数切替スイッチ		
⑩	エコモードスイッチ	⑮	交流コンセント		

2 使用にあたっての注意点

- 1 室内や換気の悪い所では使用しない。（排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります）
- 2 雨の中や水のかかる所では使用しない。
- 3 燃料のガソリン及びその気化ガスは、爆発性が高いので取扱いに注意する。
- 4 操作中に異常を感じた場合は、直ちに操作を中止する。

3 使用方法

【エンジンの始動】

手順 1 「②燃料タンクキャップ」をはずし、自動車用無鉛ガソリンを入れる。

手順 2 発電機の「⑭交流コンセント」と「⑮直流シガーソケット」に何も差し込まれていないことを確認する。

手順 3 「①燃料タンクキャップつまみ」を「ON(開)」にする。



手順 4 「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「始動」にする。

※エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」にする

手順 5 「⑧エンジンスイッチ」を「ON」、「⑨エコモードスイッチ」を「OFF」にする。



手順 6 「⑤リコイルスターターグリップ」をゆっくり引き、ロープに著しい摩耗や損傷がないか確認をする。

手順 7 後方を確認し、「⑤リコイルスターターグリップ」を引いて重くなるところを探し、重くなったところから「⑤リコイルスターターグリップ」を勢いよく引く。



手順 8 エンジンがかかったら、「⑤リコイルスターターグリップ」をゆっくり元の位置に戻す。

- 手順 9** エンジン始動後、「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「運転」の位置にして暖機運転を行う。



【電気の取り出し】「⑭交流コンセント」使用の場合

- 手順 1** 使用する電気機器の電源が切れていることを確認し、「⑭交流コンセント」に電源プラグを差し込む。



- 手順 2** 使用する電気機器の電源を入れて使用を開始する。

※消費電流の合計が上限を超えないようにすること。
消費電流の合計：9 A

【エンジンの停止】

手順 1 使用電気機器のスイッチを切り、電源プラグを抜く。

手順 2 「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「燃料オフ」の位置にする。



手順 3 エンジン停止まで待つ。(約 5 分)

手順 4 エンジンが止まったら「⑧エンジンスイッチ」を「OFF」にする。



手順 3 エンジンが十分に冷えてから、「①燃料タンクキャップつまみ」を「OFF (閉)」にする。



4 収納保管

手順1 「⑧エンジンスイッチ」を「OFF」にしてエンジンを停止する。

手順2 「②燃料タンクキャップ」及びストレーナーを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜く。



手順3 「②燃料タンクキャップ」及びストレーナーを取り付ける。

手順4 「①燃料タンクキャップつまみ」を「ON(開)」にする。

手順5 「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「始動」にする。

※エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」にする。

手順6 「⑧エンジンスイッチ」を「ON」、「⑨エコモードスイッチ」を「OFF」にする。

手順7 「⑤リコイルスターターグリップ」を引いて、エンジンを始動する。

手順8 始動後、エンジンの回転が安定したら、「⑩燃料コック兼チョークノブ」を「運転」の位置にする。

※電気機器は接続しない。

手順8 エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待つ。

手順9 「④メンテナンスカバー」を取り外す。ネジを取り外し、「④メンテ

ナンスカバー」を外側に引く。

- 手順 10** 排出するガソリンを受ける容器を用意し、キャブレターのドレインパイプを容器で受け、ドレインネジをマイナスドライバーでゆるめて燃料を抜く。



- 手順 11** ドレインネジを締め付け、ドレインパイプを元に戻す。
- 手順 12** 「⑧エンジンスイッチ」「⑩燃料コック兼チョークノブ」「①燃料タンクキャップつまみ」をすべて「OFF（閉）」にする。
- 手順 13** 「④メンテナンスカバー」「③オイルプラグメンテナンスカバー」を取り付けて、ネジを確実に締め付ける。
- 手順 14** 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管する。

廃油の処理

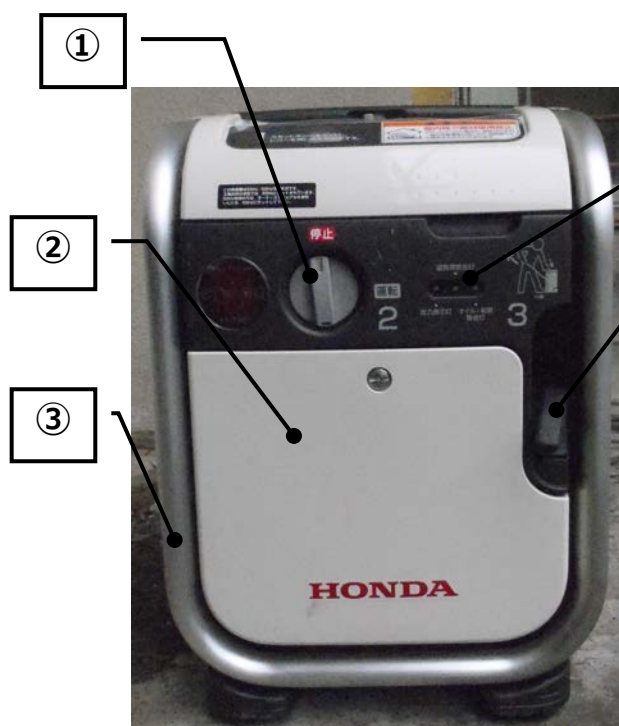
発電機等を使用し、取り出した燃料を地面や排水溝などに処分することは廃棄物処理法で禁止されています。

ガソリンスタンドなどで適正な処理を行ないましょう。

2. ガス式発電機

種 類	EU9iGB（本田技研工業株式会社）
乾 燥 重 量	19.5kg
エンジン形式	空冷4ストローク立型（OHV）
総 排 気 量	57.3cc
使 用 燃 料	LPG（液化ブタン/指定カセットボンベ）
タ ン ク 容 量	500g（カセットガス2本の容量）
備 蓄 数	3台

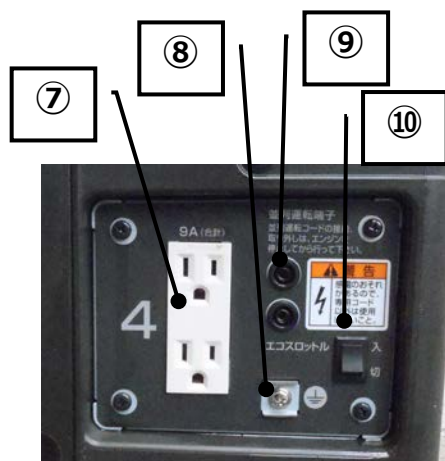
1 部品名称



(前面)



(背面)



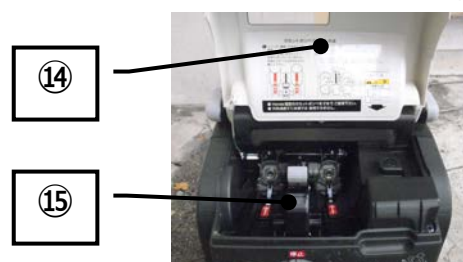
(右側面)



(左側面)



(前面下 (メンテナンスカバーを開けた状態))



(前面下 (ボンベカバーを開けた状態))

番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	エンジンスイッチ	⑥	始動グリップ	⑪	排気口
②	メンテナンスカバー	⑦	交流コンセント	⑫	周波数切り替えスイッチ
③	キャリーハンドル	⑧	アース端子	⑬	オイル給油口
④	リアハンドル	⑨	並列運転端子	⑭	ボンベカバー
⑤	左：出力表示灯 中央：過負荷警告灯 右：オイル／転倒警告灯	⑩	エコスロットルスイッチ	⑮	操作レバー

2 使用にあたっての注意点

- 1 室内や換気の悪い所では使用しない。（排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性あり）
- 2 雨の中や水のかかる所では使用しない。
- 3 排気口のそばに燃えやすいものを置かない。
- 4 操作中に異常を感じた場合は、直ちに操作を中止する。
- 5 エンジンの始動にあたっては、発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜いてあることを確認する。

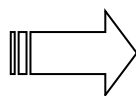
3 使用方法

【エンジンの始動】

手順 1 「⑭ボンベカバー」を開け、「⑮操作レバー」が手前（解除）にあることを確認し、カセットボンベを2本差し込む。

※ボンベの先端の口金の割れ目が下に来るように差し込む

正しく差し込んだら、「⑭操作レバー」を奥にスライドし、固定する。



- 手順 2** 発電機の「⑦交流コンセント」と「⑨並列運転端子」に何も差し込まれていないことを確認し、「①エンジンスイッチ」を「運転」の位置に合わせる。



- 手順 3** 「⑥始動グリップ」をゆっくり引き、ロープに著しい摩耗や損傷がないか確認をする。

- 手順 4** 後方を確認し、「⑥始動グリップ」を勢いよく引く。



- 手順 5** 約 1 分間の暖機運転を行う。

【電気の取り出し】

- 手順 1 使用する電気機器の電源が切れていることを確認し、「⑦交流コンセント」に電源プラグを差し込む。



- 手順 2 使用する電気機器の電源を入れて使用を開始する。

〈使用できる範囲〉

使用電気機器	使用範囲
一定の継続した負荷がかかるもの 照明、テレビ等	900W
通電時に大量の負荷がかかるもの ドリル、モーター（種類によっては使用不可）等	400W

【エンジンの停止】

- 手順 1 使用電気機器のスイッチを切り、電源プラグを抜く。
- 手順 2 「①エンジンスイッチ」を「停止」にあわせる。



4 収納保管

手順 1 エンジンが停止したら、カセットボンベを取り外す。

※「⑭操作レバー」を手前に引いて、解除してから取り出す



手順 2 「①エンジンスイッチ」を「運転」に合わせ、再度エンジンを始動させ、発電機内の残留ガスがなくなるまで運転する。

手順 3 エンジンが停止したら「①エンジンスイッチ」を「停止」にし、エンジンが完全に冷えてから収納する。

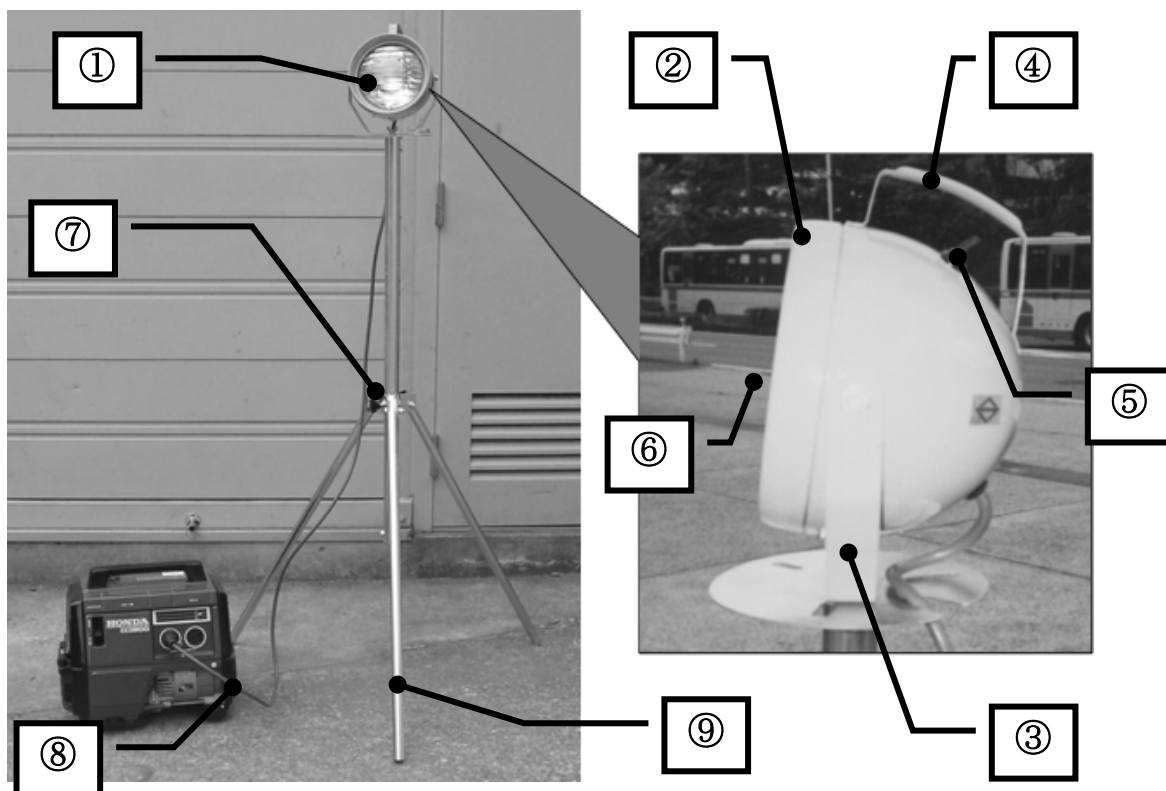
投 光 器

投光器は、家庭用コンセントや発電機を電源とし、操作はそれほど難しいものではありませんが、転倒などで強い衝撃を与えると玉切れや投光機前面のシールドなどが破損することがありますので、取扱いには注意が必要です。

種 類	PF-56 型可搬式（小糸工業）
重 量	約 2 kg
最大高さ	約 2 m
必要容量	AC100V × 300W
備 蓄 数	3 台



1 部品名称



番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	照明本体	④	把手	⑦	高さ調整ネジ
②	前枠	⑤	オンオフスイッチ	⑧	電線コード
③	支持腕（ブラケット）	⑥	シールドビーム	⑨	三脚

2 使用にあたっての注意点

- 1 ランプの全面が汚れていると、明るさが低下するほか点灯時の高温により、汚れがランプに焼き付くことがある。汚れは、点灯前に拭き取ること。
- 2 点灯時や消灯直後は、ランプや灯体外部が高温となるので火傷などに注意すること。

3 使用方法

手順1 「⑦高さ調整ネジ」を緩める。

手順2 「⑨三脚」を任意の高さに調整して脚を三方に開く。路面は平らな安定した箇所に設置する。

手順3 「⑦高さ調整ネジ」を硬く締める。

手順4 三脚の上部のネジ穴（凹）に「③支持腕（ブラケット）」の下部に開いている穴を合わせ、付属の蝶ナットで固定する。



手順5 投光機本体から出ている「⑧電線コード」を AC100V 発電機又は家庭用コンセントに接続する。

手順6 「⑤オンオフスイッチ」により点灯する。

手順7 「④把手」を持ち、上下方向に動かすことにより方向を変えることができる。

4 収 納

手順1 「⑤オンオフスイッチ」により消灯する。

手順2 「⑧電線コード」を AC100V 発電機又は家庭用コンセントから抜く。

手順3 三脚に固定した蝶ナットをはずし、「③支持腕（ブラケット）」を三脚からはずす。（はずした蝶ナットは元の状態に戻す）

手順4 「⑦高さ調整ネジ」を緩める。

手順5 三脚の脚をたたんで、「⑦高さ調整ネジ」を締めてから収納する。

5 電球の交換

作業は、電源が完全に「オフ」になっていることを確認してから行う。

手順1 「⑩止めネジ」を完全に緩める。

手順2 「②前枠」を「①照明本体」からはずす。

手順3 本体裏側の「⑧電線コード」の先の「⑫コネクター」を引き抜く。

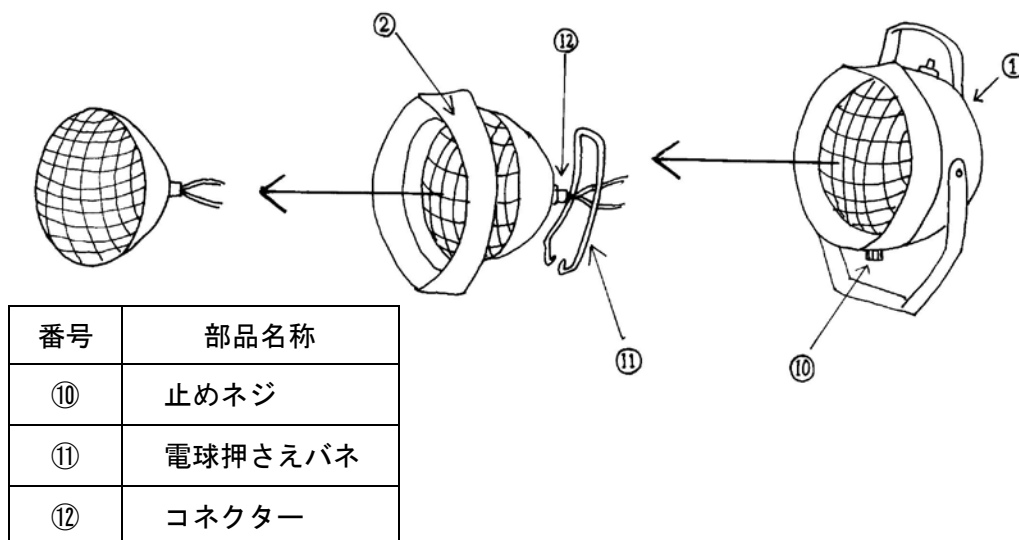
手順4 「⑪電球押さえバネ」をはずして電球を取り出す。

手順5 新しい電球の装着。（上下が決まっているので注意する。）

手順6 「⑪電球押さえバネ」で電球を固定する。

手順7 「⑧電線コード」のコネクターをランプに接続する。

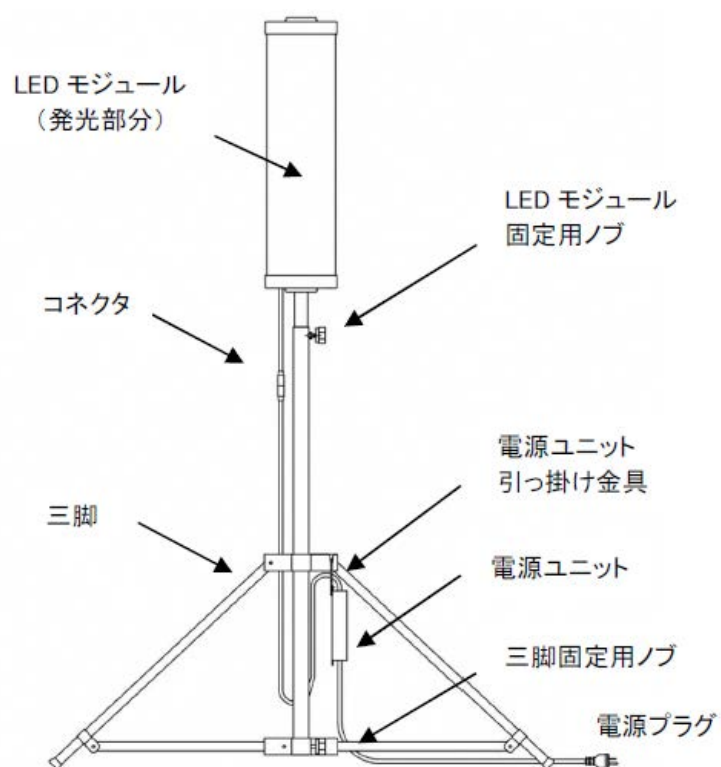
手順8 「②前枠」を「①照明本体」に装着し、「⑩止めネジ」を接続する。



種 類	トライト 360Y（株式会社スリー・エス）
重 量	6.5kg
最大高さ	1.8m
消費電力	AC100V×175W
備 蓄 数	1 台



1 部品名称



【キャリーバックと収納されているもの】



2 使用にあたっての注意点

- 1 使用前には取扱説明書をよく読むこと。
- 2 転倒や怪我の原因になるため、運搬時には三脚を折りたたむこと。また、持ち運びの際には十分に注意すること。
- 3 目を傷めたり、目に悪影響を及ぼす恐れがあるため、点灯している LED モジュールを長時間直視しないこと。

3 使用方法

- 手順 1** 平坦な場所に三脚の脚を広げ、三脚固定用ノブを締め、三脚を立てる。
- 手順 2** LED モジュールを三脚に取り付け、LED モジュール固定用ノブで固定する。



- 手順 3** 電源ユニットを三脚の引っ掛け金具に取り付け、LED モジュールと電源ユニットのコネクタを接続する。



- 手順 4** 電源プラグを発電機または家庭用コンセントに接続すると点灯する。
消灯させる場合は、電源プラグを抜く。

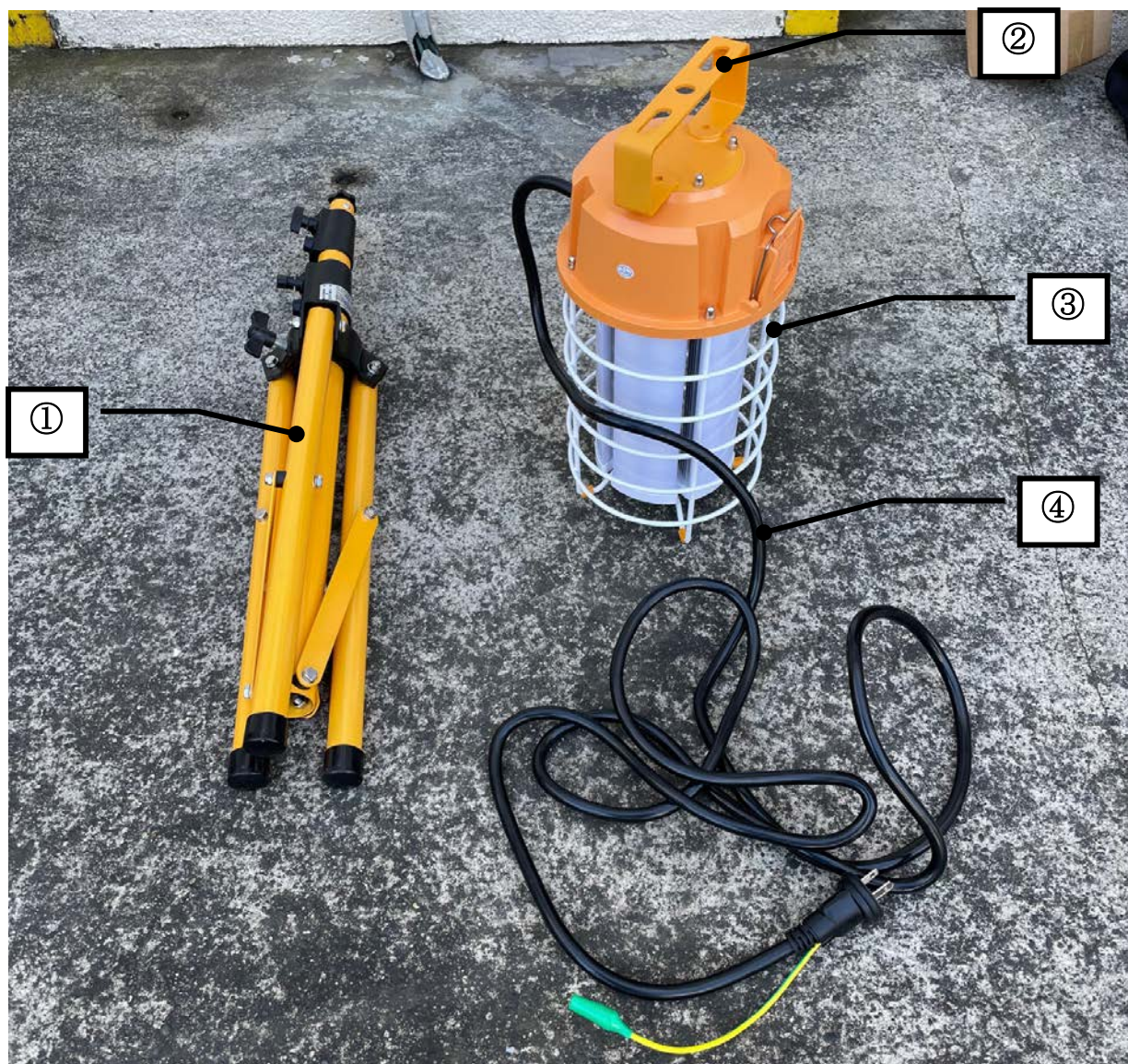
4 収 納

- 手順 1** 発電機または家庭用コンセントから電源プラグを抜き、消灯する。
- 手順 2** LED モジュールと電源ユニットのコネクタの接続部分を取り外す。
- 手順 3** 三脚に固定した LED モジュール固定用ノブを外し、LED モジュールを三脚からはずす。
- 手順 4** 三脚固定用ノブを緩め、三脚の脚をたたみ、収納する。

種 類	LED サンサンライト（株式会社ネクセル）
重 量	約 5.3kg（本体約 2.8kg、三脚約 2.5kg）
最大高さ	約 1.9m
消費電力	AC100V × 120W
備 蓄 数	1 台



1 部品名称



番号	名称	番号	名称
①	三脚	③	保護ネット
②	フレーム	④	コンセントへ接続するケーブル

2 使用にあたっての注意点

- 1 使用前には取扱説明書をよく読むこと。
- 2 強風等の時は転倒防止のために砂袋等を三脚架の下部に置くこと。
- 3 目に悪影響を与えるため、光源を直視しないこと。
- 4 分解・改造をしないこと。

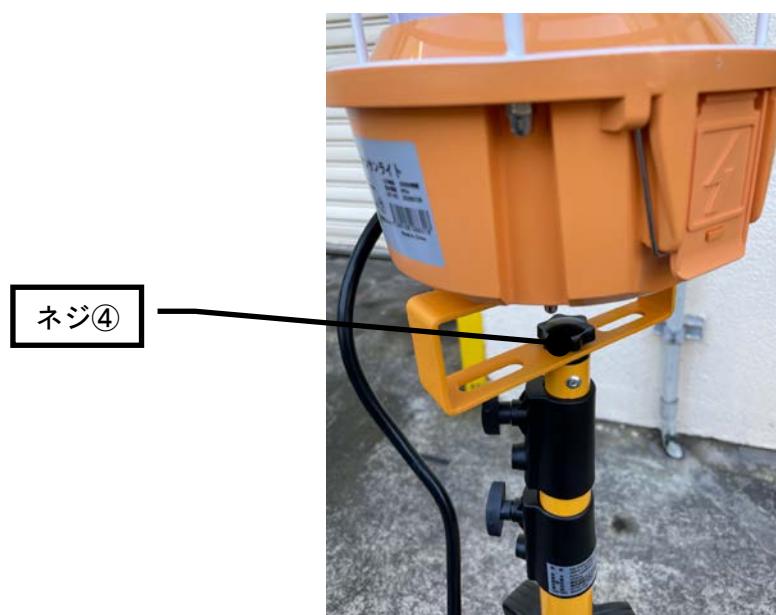
3 使用方法

手順 1 平坦な場所に三脚の脚を広げ、ネジ①を回して脚を固定させる。

手順 2 ネジ②とネジ③を緩めて高さを調整し、それぞれのネジを締めます。



- 手順 3** ネジ④を回しながら外し、本体を三脚に取り付け、ネジ④でしっかりと止める。



- 手順 4** ケーブルの先の電源プラグを発電機または家庭用コンセントに接続すると点灯する。消灯させる場合は、電源プラグを抜く。

4 収 納

- 手順 1** 発電機または家庭用コンセントから電源プラグを抜き、消灯する。
- 手順 2** ネジ④を回しながら外し、本体を三脚から外す。
- 手順 3** ネジ①～③を緩め、三脚をたたみ収納する。

簡易担架

災害発生時に、体が不自由な人や負傷して自力歩行が困難な人を安全な場所に避難させるためのひとつの手段として、簡易担架の作り方と搬送要領を訓練しておきましょう。

使用資機材			
資機材名	素材	使用数量	備蓄数量
ポール（棒）180~200cm	竹、木、鉄	2本	10本
毛布	綿等	1枚	230枚





ポール

毛布

1 作成手順

手順1 毛布を地面などの平らなところに広げて置く。

手順2 毛布の $1/3$ のところに棒1本を置く。



$1/3$ の部分

手順3 その棒を包むように毛布を折り返す。

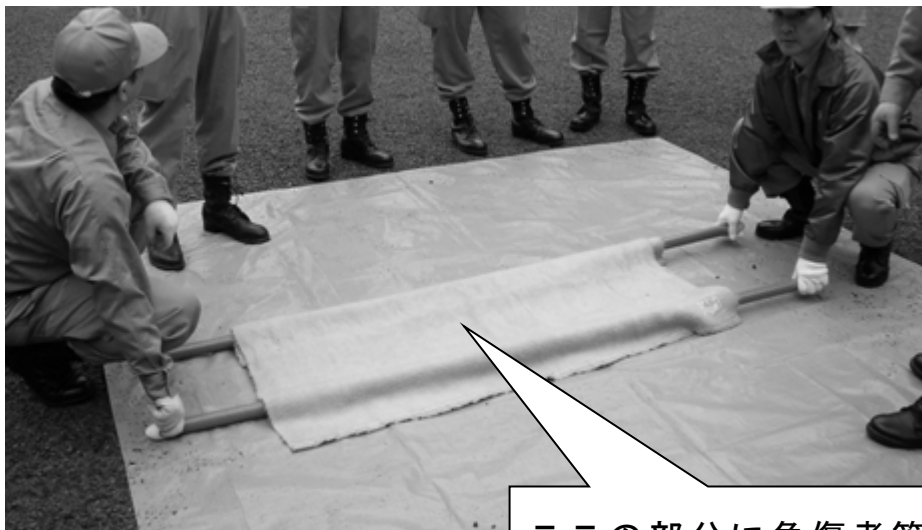


手順4 先ほど折り返した毛布の端の部分（上写真の★印の部分）に、残りの棒を1本置く。

手順5 その棒を包み込むように、反対側の毛布の端を折り返す。



手順6 完成しました。



この部分に負傷者等を
乗せて搬送します。

【運搬方法】

- 1 できるだけ4人で搬送する。
- 2 搬送される人（患者や傷病者）の足の方を進行方向とする。
- 3 搬送する際には、搬送される人（患者や傷病者）の担架上での体の位置を、足を低く、頭を高くする。
- 4 降ろすときは、搬送される人（患者や傷病者）の足のほうからゆっくり降ろす。

工 具 類

横浜市地域防災拠点防災備蓄庫の中には、目的別にいろいろな種類の工具が入っています。用途は参考ですので、適宜活用して下さい。

1 つるはし

地面を掘削するときや倒壊物の破壊に使用します。

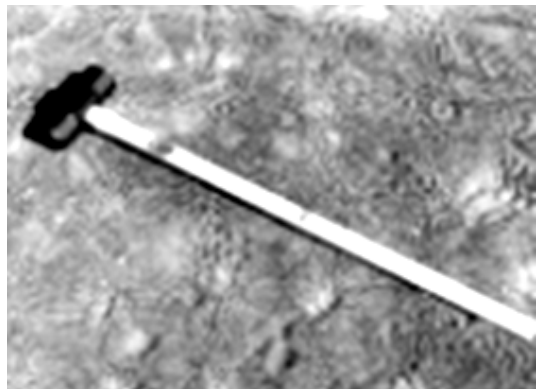
備蓄数量：5本



2 大ハンマー

仮設トイレを固定するためのアンカー等の杭打ちや倒壊物の破壊に使用します。

備蓄数量：5本



3 スコップ

瓦礫等の撤去等地面を掘削するときに使用します。

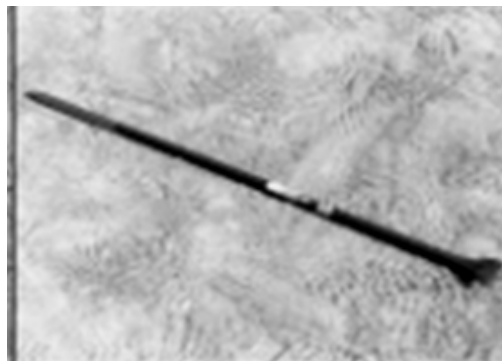
備蓄数量：5本



4 テコ棒

倒壊物を押し上げる（広げる）ときなどに使用します。

備蓄数量：5本



5 大バール

扉のこじ開けや倒壊物の破壊に使用します。

備蓄数量：5本



6 ワイヤークッター

救出時に障害となるネットフェンスやワイヤー等の切断に使用します。

備蓄数量：5本



7 大なた

倒壊木材等を破壊したり、門扉やドアの鍵部分の破壊に使用します。

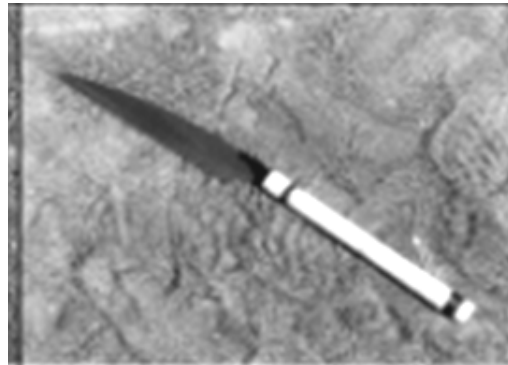
備蓄数量：5本



8 のこぎり

倒壊木材等の切断や木材加工のために使用します。

備蓄数量：5本



9 掛矢

避難誘導のロープを張るときなど木杭等を打ち込んだり、倒壊木材の撤去に使用します。

備蓄数量：2本

